



McGill

2025 年 8 月
2020 年度奨学生
兼田 真周

船井情報科学振興財団 第 12 回留学報告書

昨年 8 月より、カナダ東部モントリオールのマギル大学化学工学部にて、引き続きポスドクとして水処理技術の研究を続けています。PhD 取得後から国が変わり、研究テーマや役割が変わり、キャリア計画やその他心境を含め多くのことが大きく変化した 1 年でした。第 12 回目の留学報告書では、2025 年 1 月から 8 月までの出来事を紹介いたします。

研究は概ね順調に進んでおり、昨年秋頃に立ち上げたプロジェクトのアウトラインをまとめ、執筆の段階まで進めることができました。今年中に投稿できるよう頑張ります。これと同時期に発案したサブプロジェクトも、メンターを務めている PhD 学生が筆頭として一気に進めてくれ、先月にはジャーナル投稿まで漕ぎ着けました。正直、推敲や議論のスピードが速過ぎて内容的にやや物足りなさや完成度に引っ掛かる点もありますが、学生のやる気と勢いを尊重する PI にとりあえず同調しています。その後、第一稿はリジェクトとなってしまったため、現在は revise と再投稿の準備を手伝っています。また、PhD 時代の最後の論文のレビューも最近ようやく戻ってきましたが、5 名の reviewer から合計 100 近いコメントが寄せられ、返答には相当な時間と体力、気力を要しました。幸い返答は概ね好意的に受け止められましたが、まだいくつか指摘が残っており、追加の対応を検討中です。夏からは 2 名の PhD 学生に加え、学部生もプロジェクトに参加することになりました。この学生は 19 歳と非常に若く、日常的なコミュニケーションやモチベーションの引き出し方を日々模索中です。プロジェクトを発案し、プロポーザルとして仕上げ、PI のフィードバックを元に修正し、学生たちを巻き込みながら進めるという一連のサイクルを通して、目新しい研究テーマの開拓とメンターとしてのスキル向上に取り組んでいます。

今年前半は、多くの学会に参加する機会がありました。ポスター発表、オンライン発表、ライトニングトーク、通常の口頭発表と形式を織り交ぜながら、カナダ国内ではオタワ、カルガリ

一、ケベックシティ、国外ではノースカロライナ州を訪れました。特に Duke 大学での学会は、とても綺麗なゴシック様式のキャンパスに圧倒されました。特に緑が沢山あって癒されました。また 5 月には卒業式のため数日間だけ New Haven に戻り、懐かしい友人や先輩・後輩と再会して楽しい時間を過ごしました。その前日に NYC を何気なく観光した際、PhD 中に何度か遊びに来ていた頃よりも街が快適で楽しく感じられることに気付きました。おそらく当時は研究のストレスで感覚が鈍っていたのだと思います。改めて、休むときはオフィスから離れるだけでなく、気持ちからしっかり休むことの大切さを感じました。秋にはモントリオールで学会発表の予定があるため、緩急つけながら準備を進めていきます。

昨年からのジョブサイクルでは、現在の研究室と PhD 時代の研究室から、ポスドク仲間が次々と無事に faculty ポジションを獲得し、私自身もいよいよ本格的にキャリアを見つめ直す時間が増えてきました。幸い、フェローシップの任期は 2027 年までであるため、それまでじっくりと考えを深めたいと思います。先月サンフランシスコで開催された夏の交流会は絶好の機会であり、分野は異なっても新旧様々な世代の奨学生たちから大きな刺激とやる気をいただきました。バックグラウンドを問わず、気兼ねなく真剣な相談とくだらない雑談が同時にできる場であり、改めて貴重なコミュニティだと感じました。

最後になりましたが、博士課程在学中から現在に至るまで、船井情報科学振興財団の皆さまには大変手厚いご支援をいただき心より感謝申し上げます。今後とも引き続き、何卒よろしくお願い申し上げます。



(←) 4 月、東京の庭園。前日の大雨が嘘のように晴れた朝でした。

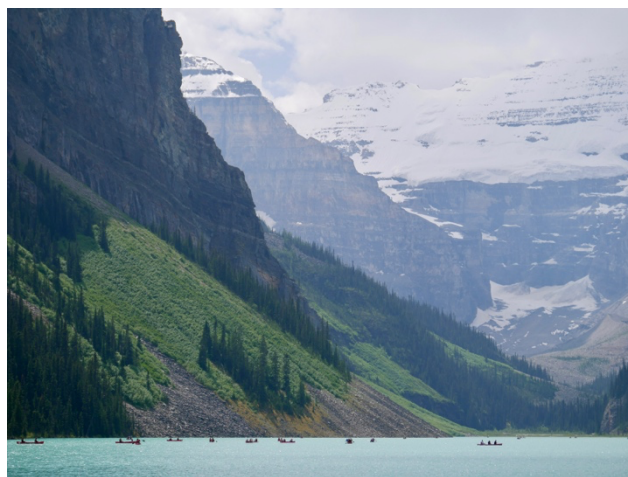


(→) 5 月、モントリオール。街のあちこちでチューリップが綺麗に咲いています。



(←) 5 月、NYC・Bryant パーク。飲み歩きや食べ歩きが多い、休日の賑わいでした。

(→) 5 月、Yale 大学卒業式。Woolsey ホールにて学位授与式が行われました。



(←) 6 月、カナダの首都オタワ。英語とフランス語が見事に半々で使われていました。

(→) 6 月、カルガリー近郊の Banff 国立公園。雄大なロッキー山脈を望むことができました。